

王蝶アグリアス



アグリアスはタテハチョウの仲間
で、世界で最も美しい蝶の一つとして
古くから知られています。南米
の特産種で、開帳（[ここ](#)をご覧ください。）
は8cm前後で、ミイロタテハの名が示す
ように黒地に赤・黄・青・緑などの強
烈な色彩で飾られ、飛ぶことがとても
早く「真紅の光線が空気を貫く」と物
の本にも記され

ています。

多くは、前人未踏のアマゾン川流域の熱帯雨林に生息し、個体によって、また流域によって色彩が変化し、同種であるのに、まったく別種と思われるものもあります。

日本で出版されている世界の蝶の図鑑では、Species（種）とSub Species（亜種）が入り乱れて、よく分かりませんが、以下のホームページのSpeciesとSub Speciesの区別を確認しながらご覧になるといいですよ。（[ここ](#)をご覧ください。）

左のフレームにアグリアス属が記されており、アグリアス、アエドン、ロドリゲッティーなどの名前を探してみてください。

南米には金ぴかの大蝶モルフォチョウがいて有名ですが、モルフォチョウの女性的な美しさに比べ、この蝶は翅が厚く、飛翔力もあるところからとても男性的で「蝶界の王者」とまでいわれています。

このアグリアスの翅の模様は実に多様で、我々の顔と同じく、どれ一つとして同じ模様がないとさえいわれています。だからこそ、集めても集めても、次々と現れる新たな美に魅せられ、ヨーロッパの富豪たちを夢中にさせたそうです。

飛び方が早いので、採集は非常に困難であり、現地では樹間に袋仕掛けのトラップをかけて、彼等の好物である果物や人糞あるいはワニの腐肉などを入れて誘惑して採集するそうです。

この蝶は面白いことに、人糞に集まる習性がありますが、欧米人や

東洋人のものには集まらず、現地人の新鮮な排泄物にだけ集まるといわれています。このため、フランス人のモルフォ研究者兼コレクターのルムールは南米でアグリアス採集に出かけるときは、新鮮な人糞を確保するために数人の黒人をそれだけの目的のために同伴させたという面白い話が残されています。

アグリアスは普通種であるサルダナパルスミイロタテハを除いて数は少ないので、日本や欧米のコレクターが手にするときの値段は数万円、中には10万円もするものもあるそうですよ。

また、アグリアスがあまりにも珍奇なために、19世紀ヨーロッパでは、ロスチャイルド銀行などの超一流銀行では、「担保」として、アグリアスの標本を評価したといわれています。また、この蝶はヨーロッパ、アメリカ、日本など世界中の昆虫収集家の間では、昆虫標本の中で最も高く評価されています。

どんな物でもそうですが、少ないことそれ自体が価値を生むんですね。